

大会名 Competition	第78回全国高等学校バスケットボール選手権大会 富山県予選				場所 Place	富山県西部体育センター	
NO. 特1	日時	2025年11月2日		10:00			

龍谷富山	高岡第一	都道府県 代表決定戦 ライブ・見逃し配信!
※配信対象試合はバスケットLIVE公式サイトでお知らせいたします。 バスケットLIVE		

77 **22** 1Q **11**
24 **15**
18 **8**
13 **21**
 ○ ●

Crew	Chief	Umpire 1	Umpire 2
河田 真由美	上田 遼馬	藤井 泰誠	

Table Officials

--

龍谷富山

NO	PL-in	選手氏名 Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
1	11	/ 山田 衣織	3	1			
2	16	× 林 えり	7	1	2		4
3	17	/ 藤山 日菜子	2		1		1
4	18	/ 鴨島 英紅	0				
5	23	× 竹部 美咲	9		4	1	2
6	24	/ 山本 茉莉あ	0				1
7	25	/ 橋 志帆	0				
8	29	× 伊藤 想乃香	24	1	10	1	1
9	30	× 赤坂 奈緒	7		3	1	
10	31	× 新崎 馨	23	2	6	5	1
11	32	/ 奥村 風羽	2		1		1
12	77	/ 矢野 凜	0				1
13	84	/ 橋 華月	0				
14	86	/ 黒田 紗矢	0				2
15	99	酒井 理羽	0				
コーチ		佐藤 肇					
Aコーチ		成瀬 夕湖					
合 計			77	5	27	8	14

高岡第一

NO	PL-in	選手氏名 Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
1	4	× 堀田 結暖	13	1	5		2
2	5	茅原 結愛	0				
3	6	× 明瀬 史奈	13		6	1	4
4	7	× 田中 茉帆	8	1	2	1	3
5	8	× 茶谷 藍里	6	1	1	1	1
6	9	× 岡 虹芹	10	2	1	2	3
7	10	/ 堀 莉杏那	5	1	1		2
8	11	/ 松本 芽衣	0				
9	12	柿原 未来	0				
10	13	河上 楓果	0				
11	14	小塚 姫菜	0				
12							
13							
14							
15							
コーチ		米田 春菜					
Aコーチ		成田 いくみ					
合 計			55	6	16	5	15

戦評

※ ×:スターター ∕:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

1Qは龍谷富山ボールからスタート。先制は龍谷富山#31のゴール下。龍谷富山は高さを活かしてロープストを起点に、ウイングからのドライブや合わせによってオフェンスのリズムをつくり、開始4分で7-0のラン。ここで龍谷富山は開始5分でタイムアウトをとり、オールコートマンツーに切り替えてさらなるプレッシャーをかける。高岡第一は#4のディフェンスやオフェンスリバウンドでくらいくも、22-11で1Qは終了。

2Qはお互い攻守に奮闘し、早いゲーム展開に。高岡第一は#4、#6、#9へのボールマンピックや積極的なドライブでファールを誘い、得点を狙う。龍谷富山は#23#29のポストを起点に、#30、#31のドライブやそこからの合わせなど個人技が光るプレーを魅せる。2Q5分経過したところで12-9のラン。両チームとも激しいディフェンスによりターンオーバーを誘い、何度も得点チャンスをつくるも46-26で龍谷富山が20点リードで前半を終える。

3Q開始直後、高岡第一のディフェンスが光る。ポストへのディナイとダブルチームにより、龍谷富山に思うようにオフェンスをさせない。しかし、こぼれ球に反応した龍谷富山の#31の得点を皮切りに、そこから龍谷富山の激しいプレッシャーと流れるような3線速攻により、開始4分で9-0のラン。両チームともディフェンスがよく、高岡第一は2度の24秒タイムオーバーやインターセプトされ、さらに龍谷富山はトラベリングやタフショットを誘う。両チームとも得点チャンスを幾度もつくるも着実に決めていった龍谷富山がさらに差を広げ、64-34で3Qが終了。

最終4Q、立ち上がりは高岡第一が1-2-2ゾーンとマンツーマンを使い分け、24秒タイムオーバーを誘う。ゾーンディフェンスが効果的に機能し、4Q開始5分で3-10のラン。高岡第一のペースに。龍谷富山は速いパス回しからの#16#29の3Pで悪い流れを断ち切り、#31の速攻で盛り返す。しかし以前高岡第一のゾーンディフェンスがうまく機能し、そこから#4#9の鋭いドライブから得点を重ねた。

両チームとも気持ちのこもった激しいディフェンスを見せ、早いゲーム展開であったが、一度もリードを譲らなかった龍谷富山が77-55で5年連続32回目の優勝を果たし、WC本戦の切符をつかんだ。